

第5学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 学習材から自ら問いを見出して、学習計画を立てる力が身に付いてきた。
 - 資料から読み取ったことを基に、問いの答えをまとめることができる。

- 課題**
- ▼ 資料から読み取ったことを関連付けて、まとめることに苦手さを感じる児童がいる。
 - ▼ 資料から必要な情報を選び取ることに苦手さを感じる児童がいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 学習問題を見出して、主体的に問いを追究しようとする力。
- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、資料から読み取ったことを関連付けて多角的に思考し、問いに対する考えをまとめる力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 導入の学習材との出会いを工夫し、当事者性をもって、問いを追究できるようにする。
- 学習計画を基に、自分の学びを振り返りながら学習を進めていく。

言語活動の工夫

- 資料の読み取りをもとに、見えること（事実）と言えること（原因や理由、解釈や意味付け）をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。

ICT活用の工夫

- ICTを活用して資料を提示し、気付いたことや考えたことを共有する。

課題解決力育成の工夫

- 社会的な見方・考え方を働かせることのできる資料を提示することで、自ら問いを見出せるようにする。

達成目標

- 国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。